

医動物学実習

科目責任者 川 合 覚
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

医動物学の講義で得た知識に加え、主要な寄生虫（病）の形態、病理、診断、検査法等について実物を通して習得します。

代表的な寄生虫（マラリア原虫、回虫、住血吸虫類、肺吸虫類等）の宿主への感染、或いはアニサキスなど幼虫移行症を引き起こす寄生虫の非固有宿主体内での発育、病態および宿主応答を理解します。

本科目を通して、患者やその家族、医療関係者をはじめ、幅広い人々から信頼される医師として活躍できる知識を習得することが期待されます。

試験は実習で行った内容を咀嚼して理解していれば解答できる問題を出題します。併せて実習ノートについては随時添削して学生諸君にフィードバックします。

II. 担当教員

教 授 川 合 覚（熱帯病寄生虫病室）
講 師 桐 木 雅 史（熱帯病寄生虫病室）
助 教 Marcello Otake Sato（熱帯病寄生虫病室）
教 員 （内科学（消化器））

III. 一般学習目標

人体に寄生し、病害を与える原虫類・蠕虫類ならびに疾病媒介動物の形態、生態、発育史および感染経路を理解し、それらに起因する疾病の基本的病態、診断、治療、予防について基礎的知識を習得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 寄生虫の生物学的特性すなわち形態、構造、機能、生活環を説明できる
- 2) 原虫類、蠕虫類感染とそれらによる病態を宿主-寄生虫関係の面から説明できる。
- 3) 寄生虫性疾患における媒介動物の役割と病原体の伝播様式について説明できる。
- 4) 寄生虫の分類・同定の基本的事項について説明できる。
- 5) 免疫学的診断法を習得し、寄生虫性疾患の補助診断について説明できる。
- 6) 原虫類・蠕虫類感染とその病態を感染動物モデルを用いて説明できる。
- 7) 寄生虫性疾患の予防法及び撲滅対策を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	5	12	木	4	線虫性疾患	全 教 員	4
2		12	木	5			
3		12	木	6			
4		19	木	4	吸虫性疾患	全 教 員	4
5		19	木	5			
6		19	木	6			
7		26	木	4	条虫性疾患	全 教 員	4
8		26	木	5			
9		26	木	6			
10	6	2	木	4	原虫性疾患1【消化管，組織内寄生の原虫性疾患】	全 教 員	4
11		2	木	5			
12		2	木	6			
13		9	木	4	原虫性疾患2【マラリア】	全 教 員	4
14		9	木	5			
15		9	木	6			
16		16	木	4	衛生動物	全 教 員	4
17		16	木	5			
18		16	木	6			

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（80%）、実習ノート（20%）の比率で評価する。不適切な受講態度が見受けられた場合には減点対象となることがある。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 実習書：「令和4年度 獨協医科大学医動物学実習書」 熱帯病寄生虫病室 編
- 2) 教科書：「図説 人体寄生虫学」 南山堂

VIII. 質問への対応方法

- 1) 随時受け付けます。
- 2) 実習内容に関して質問がある場合は、メール（tropmed@dokkyomed.ac.jp）に担当教員の名前を記してアポイントを取り、教員に指示に従う。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習ノートに評価，コメントを付して返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載